

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Values include 0570102814, 社会福祉法人みその, みそのホームグループホーム, 秋田市寺内蛭根二丁目6番地34号, 令和4年11月16日, etc.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

感謝・喜び・安心の理念に基づき、日々穏やかに過ごせるよう又、一人ひとりが尊厳を持って暮らせるよう支援します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL: http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include 社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団, 秋田市御所野下堤五丁目1番地の1, 令和4年12月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一人ひとりの気持ちを大切に、その方の個性やこれまでの暮らしを尊重しながら穏やかな時間を支援しているホームである。法人はカトリック精神に基づいた社会福祉事業を運営してきているが、信仰の有無に拘わらず日々感謝の心とともに、喜びを分かち合い、安心した生活を送るという基本理念に添った暮らしへの支援が行われている。常勤の看護師を配属しているため、医療機関との連携が図られ、健康管理や介護の助言を得られる等心強い。併設するデイサービスセンターや小規模多機能型居宅介護事業所とは協力体制にあり合同の避難訓練や全体会議等、職員間で勉強の機会もある。この2～3年はコロナ禍により外出や家族との面会も制限され、オレンジカフェ(認知症カフェ)の開催判断等も難しい状況にあったが、家族への毎月のお便りや電話、手芸や創作活動など日々充実した時間を過ごせるよう工夫して支援が行われていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 47-53 describe service outcomes like staff understanding user needs, safety, and support.

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「感謝・喜び・安心」を理念に、一人ひとりが尊厳をもって暮らせるように支援している。	理念は玄関の見やすい場所に掲示し、日頃から職員の目に触れられ共有されている。日々の支援は理念に添って行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生・中学生の訪問がコロナ禍の為、中止になっており交流できなかった。	コロナ禍で町内会の行事や事業所の催しなどが中止になり、小中学生や専門学校実習生の訪問等も受け入れ不可の現状だが、中学生と手紙の交流や散歩途中の公園で地域の方と声を掛け合うなどの付き合いは続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	必ず地域の方とは限らないが、電話による相談があり、見学に来られることもあった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催している。今年度は1回は顔を合わせることが出来たが、それ以外は文書での報告となった。	今年度、対面での運営推進会議は7月に開催した。書面開催の際は参加者に資料を送付し、意見については後日口頭で伺ったり書面で記載してもらったりしながら、ホームのサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会に地域包括支援センターの方に参加頂き、意見を聞いている。又、「運営協議体」に参加し、地域のお話を聞いている。	地域包括支援センター職員とは連絡を取り合う関係で、新型コロナウイルス感染拡大状況でのオレンジカフェ(認知症カフェ)開催の判断等についても相談した。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	建物が道路に面している為、玄関は1か所施錠している。夜間はアルソック警備を設定している。	身体拘束廃止マニュアルが作られ「身体拘束適正化検討委員会」が定期的に開催されている。マニュアルをもとに職員研修を実施し、職員会議やケアカンファレンスでも介護や支援の振り返りを行い適切な支援の実践を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加できていない。機会があれば参加したい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明書について十分に説明している。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	家族より、受診のお迎えなどに要望等を頂くことがある。カンファレンスで伝え、きちんとした対応が出来る様、職員で共有している。	毎月お便りで家族に近況をお知らせし、家族からは電話や支払いの訪問の際に意見や希望等を伺うようにしている。また利用者の通院付添いのため家族が来所した際も話を伺い、ホームとしては出来る限り要望に応えるよう努めている。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	日々のカンファレンスや職員会議で意見を出し合い、4月の異動で職員が入り他の部署の良いところを取り入れ、業務改善につなげている。	職員会議やカンファレンスでは職員からの意見や提案が積極的になされ、支援業務やホーム運営に反映されている。施設長とは年1回ヒアリングが行われ職員の意見を聴く機会も設けられている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症グループホーム連絡協議会、ケアパートナーズに加盟しており、研修のお知らせを頂いているが、参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問で、ご本人・ご家族の要望を聞いている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問で家族の方からも要望を聞いている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯たたみなど、その方に来ることを支援している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にある為、面会は手指消毒・マスクで短時間ではあるが希望に沿って行っている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	ご家族やご兄弟の話をしたり、小さいころの過ごした様子などを話している。自ら電話をする方は2名、又はかかってきた電話には繋いでいる。	家族、親戚や友人との面会、電話や手紙の遣り取り等必要に応じて支援している。個々の事情に合わせ、電話の時間や方法を工夫している。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じテーブルの方と制作や作業をする機会が多いので、よく声を掛け合っている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方のご家族から施設の相談があった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	職員が1人(2人の人もいる)の利用者様の担当になっており、お部屋作りからその他要望を聞いて、その方にあった支援をしている。	居室の設えやその日の装い、余暇時間の過ごし方など利用者個々の意向を聴きながら支援している。表情や仕草からも気持ちが伺えると、職員間で細かな情報を共有している。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より生活歴を聞き、カンファレンスに活かしている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	モニタリング・カンファレンスを行い、現状に合った介護計画の作成に努めている。	日々の利用者の状態の変化など細かに記載されたカンファレンスノートを職員間で共有し、ケア会議で話し合い介護計画を作っている。家族とは通院時等定期的に顔を合わせその際に意見を伺い希望を聴いている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個人記録、カンファレンスノート又は、今特別な支援のある方は、別紙を記入し職員間で共有している。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋さん定期的に来てもらい、交流をして頂いている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族対応で、それぞれ内科・整形外科・眼科などに行っている。地域のほいずみ内科クリニックに行く人が多い。	通院付き添いは基本家族が対応している。日々の状態の医師への報告は看護師が文書にて伝え、必要に応じ直接看護師が病院と遣り取りし確認している。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師が在籍している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の相談室の相談員さんと連絡を取っていた。家族が1人で病院へ連れて行くのが困難な時は、付き添っていた。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループ開設時より看取りを実施している。	本人、家族、医師と相談しながら看取りを実施している。過去の事例では家族からホームの看取り対応を深く感謝され、医師からも良い看取りが出来たとねぎらいの言葉があったことが職員の励みになったとのこと。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡時の連絡先をスタッフルームに貼っている。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震の避難訓練と水害時の避難訓練を他部署と行っている。	年2回みそのホーム全体で避難訓練を実施、地震、水害、火災想定、夜間想定での避難訓練を行っている。通報訓練、消火器操作訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重した言葉かけ、言葉遣いを気をつけている。	職員会議でプライバシー保護に関する研修を行っている他、日頃の支援現場でも言葉遣いなど互いに気をつけ確認し合いながら支援している。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとにタンス内を入れ替えしている。皆さんおしゃれをされている。髪型なども気にされており、床屋さんに来てもらうなどの支援をしている。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	給食より、出来上がった副食が一定の時間に届く。テーブル拭きや食器拭きをして頂いている。	みそのホーム全体の副食が食材配達業者から届けられ厨房で給食職員が対応し、食事は栄養・衛生面でしっかり管理されている。毎月の給食会議で献立等の意見や希望を伝えている。行事食や自由食の日もあり、その際はホームキッチンで調理し食事やおやつ作りを楽しんでいる。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量をチェックし記録している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをして頂いている。仕上げをする必要のある方もいる。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、その方の排泄パターンを把握し、その方に合った支援を行っている。	排泄チェック表で個々の排泄傾向を把握し、その人にあった排泄支援を行っている。常勤の看護師に都度助言をもらえることも排泄コントロールに役立っている。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝に牛乳を提供。また、水分を十分摂って頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回、1日2～3名が入浴している。本人の体調、受診の有無などを配慮し行っている。	入浴は本人の希望に添って行っている。入浴剤、シャンプーなど個々の好みで使っている他、入浴時間にその方が好きな音楽をかけるなど入浴をゆっくり楽しんでもらう工夫がされている。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体操や歌の時間の活動を行い、昼食後に午睡を取ってもらっている。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用法を理解する。薬の一覧は個人ファイルに保管している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たたみなど出来ることを支援している。歌をリードするなど、得意なことをやっていただく。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車での外出が行えていない。ホームの外に出て、外気浴をしたり花見をする事しか今年はできていない。	コロナ禍以前のようにドライブ外出はなかなか出来ていない状況だが、近くの桜並木や公園に気分転換を兼ね散歩に出かけている。家族との通院外出の際に買物や食事を楽しんでいる方もいる。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金のある方は本人の必要な物を家族(遠く離れている)に連絡をして買っている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は汚れや臭いが無いように職員が気付いたらすぐに片づけている。また、ホールは利用者様と一緒に作った作品で季節感を出している。	共有空間は明るく開放的、壁や床の色調は穏やかで清潔感がある。利用者や職員による手作りの室内装飾がさりげなく飾られ、訪問時はクリスマス関連のものを中心に設えてあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを置き、いつでも誰でも座れるようにしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを持ち込まれている方が4名、タンスの上などに家族やペットの写真が飾られている。	居室は個々の趣味や好みに添って設えてある。手芸作品(和紙ちぎり絵)を季節毎に替えて飾ってあったり、お孫さんから送られた写真、猫が大好きな方の部屋は猫の写真など、家族や職員と一緒に本人が居心地の良い個性的な部屋が整えられていた。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行の方、歩行器使用の方、車椅子使用の方が安全に移動できる空間作りに努めている。		